

背鰭棘条部が欠損したクロダイ

小林 知 吉

A Deformed Black Porgy, *Acanthopagrus schlegeli*, Lacking Spinous Dorsal Fin

Tomokichi Kobayashi

(Received May 27, 1980)

On September 12, 1979, a black porgy, *Acanthopagrus schlegeli* (Bleeker), lacking the spinous dorsal fin was angled at a culture pond (16,844 m²) in the Yamaguchi Prefectural Naikai Fisheries Experimental Station. The pond is connected to the sea by a water gate.

The deformed porgy, which seems to be a wild specimen, showed the following characteristics: All spinous dorsal rays except the last one were lacking. Free interneural spines and the first interneural spine stuck to each other and were pushed forward, forming a kind of hump at the top of the head. Interneural spines generally found between the first and last interneural spines of the spinous dorsal fin were lacking. The first and second neural spines were slightly curved forward. The supraoccipital was not properly developed. Other anomalies were not observed.

(Yamaguchi Prefectural Naikai Fisheries Experimental Station, Aio-Futashima, Yamaguchi 754, Japan)

1979年9月12日、山口県内海水産試験場構内の水門によって海と通じる大型試験池(16,844 m²)で、背鰭棘条部を欠いたクロダイ *Acanthopagrus schlegeli* (Bleeker) 1個体(体長87 mm)を釣獲した。

クロダイの形態異常については、天然魚では脊椎骨異常(水産庁調査研究部, 1973)、尾鰭欠損(水産庁調査研究部, 1973; 松里, 1973)、狛頭(Honma and Ikeda, 1971)等、人工採苗魚では脊柱屈曲症(北島, 1979)が報告されているが、背鰭棘条部欠損については、その症例が見当たらないので報告する。

異常魚は頭頂部が瘤状となって突出し、前額部縁辺の傾斜は急になっている。背鰭棘条部は最後位の1棘をのぞいてすべてが欠損しているため、体背部は平坦である(Fig. 1A)。その他の異常は認められない。

軟X線による観察では、正常魚と比較して次の異常が認められた(Fig. 1B)。上後頭骨の発達は不良で、遊離神経間棘と第1神経間棘は密着して前方へ傾斜しており、これが前述した頭頂部での瘤状突出物となっている。背鰭棘条部の神経間棘は第1番目と最後位の棘をのぞきすべてが欠損している。さらに、第1神経棘および第2神経棘はやや前方へ曲がっている。その他での異常は認められない。

各部位の標準体長に対する割合について、正常魚と比較した結果をTable 1に示した。異常魚は正常魚に比べ、背鰭棘条部基底長(背鰭の起部は第1神経間棘の位置とした)が長い。これは第1神経間棘が頭部中央線今まで傾斜しているためである。一方、背鰭軟条部基底長

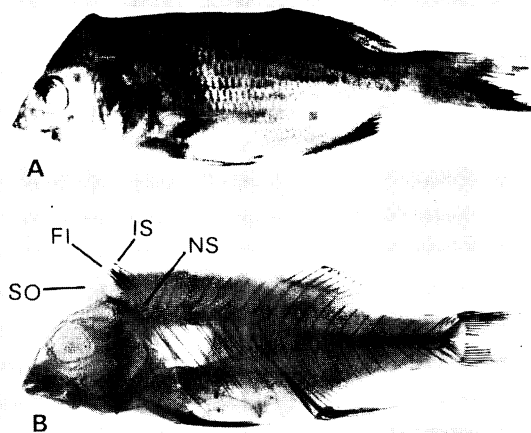


Fig. 1. A: A deformed black porgy, *Acanthopagrus schlegeli*, lacking spinous dorsal fin, 87 mm SL. B: Radiograph of the same fish. SO, supraoccipital; FI, free interneural spine; IS, interneural spine of spinous dorsal; NS, neural spine.

Table 1. Comparison of proportional measurements to standard length between the deformed and normal (42 specimens, 68~153 mm SL) black porgy, *Acanthopagrus schlegeli*.

	Deformed specimen	Normal specimens	
		Range	Mean
Spinous dorsal base	2.1	2.4~3.3	3.0
Soft dorsal base	6.2	4.5~6.0	5.1
Pectoral fin	2.7	3.0~3.4	3.1
Depth of body	2.9	2.4~2.8	2.6

は正常魚より短く、背鰭が一部欠損した場合、残存背鰭が短くなる人工産アユにおける現象 (隆島ほか, 1976) と類似している。胸鰭長および体高については、正常魚との間に明瞭な差異があるとは思われない。

本標本が天然魚である確証はないが、諸条件からその可能性が強い。なお、軟X線による観察所見や、裂傷、咬傷等の痕跡が全く認められないことから、この形態異常は発生はかなり初期に発現したのではないかと推察される。

おわりに、有益な御助言と御校閲をいただいた水産庁養殖研究所福所邦彦博士に謝意を表す。また調査の機会を与えられた山口県内海水産試験場井上泰場長、標本の採集に御協力いただいた同水産試験場の職員諸氏に感謝する。

引用文献

Honma, Y. and I. Ikeda. 1971. A pug-head specimen of black porgy, *Acanthopagrus schlegeli*, from the river-mouth of Asa-Kawa, Shikoku. Japan. J. Ichthyol., 18 (1): 36~38, figs. 1~3.

北島 力. 1979. クロダイ人工種苗の鰓の異常および脊柱屈曲症について. 長崎県水産試験場研究報告, (5): 27~32, figs. 1~4.

松里寿彦. 1973. 海産魚類にみられた骨異常について一I. 広島県沿岸産の骨異常魚. 南西海区水産研究所報告, (6): 17~58, fig. 1, pls. 1~24.

水産庁調査研究部. 1973. 奇形魚調査報告. 謄写版刷, 85 pp.

隆島史夫・野村 稔・石井重男. 1976. 人工採苗アユの体形異常について. I. 種苗にみられた骨格異常. 東京水産大学研究報告, 62 (2): 91~97, pls. 1~2.

(754 山口市秋穂二島 437-77 山口県内海水産試験場)